

28

■市街地の大河に集う渡り鳥

信濃川中流域 (長岡市)

■環境：河川
 ■対象：一般
 ■期間：3月上旬～6月

信濃川は県境から約70km下って長岡市に入ってくる。変化に富んだ流れと広い河川敷や中州の発達は、18万都市の真ん中にオジロワシやハクチョウをむかえるかけがえのない自然を提供してくれる。

〈長生橋から歩き始めて〉

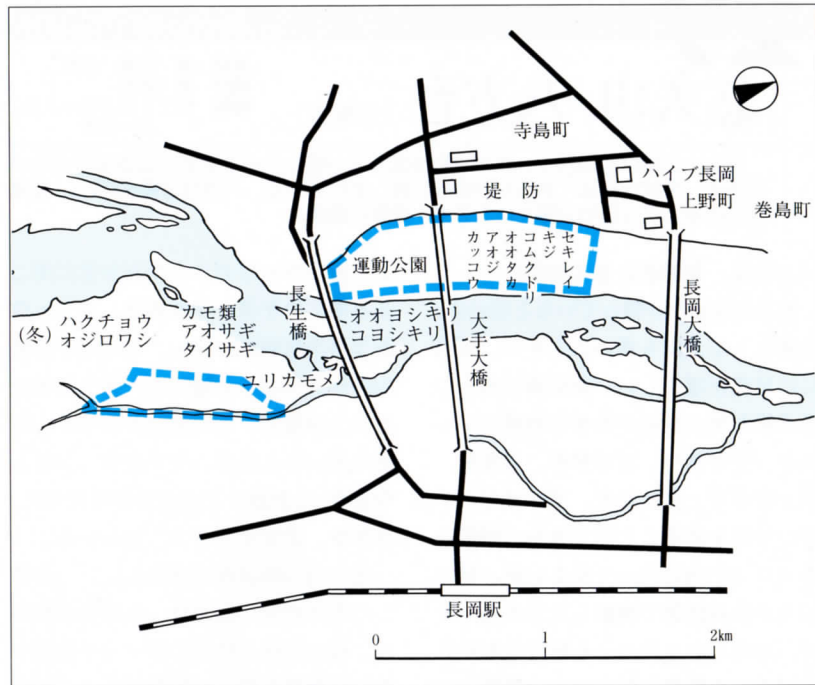
一面雪に覆われた信濃川でオジロワシやハクチョウを見るのも悪くはないが、この時期はちょうど狩猟期間でカモ類がほとんど見られない。そこで猟期も終わり、しかもオジロワシなどの冬鳥がまだ残っている3月上旬からが探鳥によい時期となる。長生橋を起点に3月であれば東詰めから右岸を上流に向かって歩き、堤防を下りて低水護岸された河川敷から探鳥する。コハクチョウの群れが憩い、中州の流木にオジロワシがぼつんと1羽、2羽止まっている。尾の真っ白な成鳥のことが多



広い河川敷が発達する信濃川

い。中州の周りの浅い流れのところには、コガモ、マガモ、カルガモなどのカモ類が集まり、カワアイサの雌雄が5～10羽ほどで見られるのもこの辺から上流である。川の上空を群れて飛ぶカワウも最近では常連になってきた。サギ類ではアオサギ、ダイサギ、コサギが、カモメ類ではユリカモメとカモメが普通である。

4月に入って冬鳥が去り、柳の薄黄色の芽吹きが始まる時期になったら、長生橋を西に渡って、今度は左岸を下流の長岡大橋の方へ河川敷を歩く。夏鳥のコムクドリが早々に渡来し、アオジの透き通るようなさえずりが聞かれるはずである。このころの河川敷の畑や荒地には、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ツグミ、ヒバリが多い。5月に入ると河畔は一面に緑が増し、野鳥は一気に多くなる。ヨシはまだ伸びきっていないが、オオヨシキリが渡来し、少し遅れてコヨシキリが姿を現す。ヤナギ林には、アオジ、コムクドリ、オナガ、ヒヨドリ、メジロ、シジュウカラなどが見られ、カッコウも5月中旬



には渡ってくる。長岡大橋付近まで行ったら今度は堤防に上がり、そのまま堤防から広い河川敷を見下ろすように探鳥しながら長生橋方向に引き返す。堤防近くの草丈の低い草地にはホオアカが観察されるはずである。また、堤防の上から見渡せる畑にはキジがよく現れるので注意しながら観察するとよい。ここでは、1回の探鳥でだいたい30～40種を観察することができる。信濃川は鳥が見やすいため、初心者にはお勧めの場所である。

(渡辺 央)

メモ

交通 JR長岡駅西口から柏崎、大積、宮本行きなどのバスで、「長生橋東詰め」か、橋を渡った「長生橋西詰め」下車。
 長生橋付近には決まった駐車場はないが、西詰めから河川敷に下りる河川運動公園周辺に駐車可能。

探鳥会 科学博物館主催の探鳥会が毎年バードウィークの時期に開催されるほか、平成9年(1997年)は、4月から11月まで毎月1回「野鳥相を調べる会」が開かれる。

問い合わせ先：長岡市立科学博物館

☎0258-35-0184